

活動名	浮世絵 Project Ukiyoe-Western Art and Japanese Traditional Art-
代表者氏名・所属	石井 友里香：人間文化創成科学ライフサイエンス専攻 M1
構成員氏名・所属	岩附 愛子：人間生活学科 生活社会科学講座 4年 宮城 鈴香：人間社会科学科 心理学コース 4年 杉山 佳奈子：人文科学科 哲学・倫理学・美術史コース 2年 清野 友里：人文科学科 グローバル文化学環 2年 瀬尾 早紀子：人文科学科 グローバル文化学環 2年 吉川 綾乃：人文科学科 地理学コース 2年 小西 菜々子：人間・環境科学科 1年 新倉 梨加：人間・環境科学科 1年

私たちが今回この企画を行った目的は大きく3つありました。

1つ目は留学生との交流の場を設けることです。お茶の水女子大学には世界中からたくさんのお茶大生が来ていますが、お茶大生と留学生がゆっくりお話をしたりする機会は少ないため、この企画への参加を通じて双方が楽しくお話をしたり母国のことや留学のことについて情報を交換し合えることを目指しました。2つ目は、留学を考えているお茶大生の日本の伝統文化への興味および理解を深めること、留学生に日本の文化を知ってもらうことです。そして3つ目は浮世絵を実際に“体験”することです。

対象は、留学予定・志望の学生、国際交流に関心のある学生、日本文化や美術に関心のある学生、海外からの留学生とし、形式は、浮世絵の職人をお招きし、浮世絵についての説明をしていただいたうえで木版の彫りの実演をしていただき、参加者に刷りの体験をしてもらうというワークショップの形をとりました。

この企画から期待される効果は、まず、留学予定・志望者は日本の文化について理解することで留学を充実させることができるとともに、留学関連の情報交換ができるようになります。国際交流に関心のある学生も、自分の興味をさらに高め、今後の交流を進めていくきっかけとなります。日本文化・美術に関心のある学生は、浮世絵制作を実際に体験することでそれまでの知識をより豊かにし、さらに今後、新たな芸術・文化の分野に興味を持っていくきっかけになります。

本イベントはグローバルリーダーシップ研究所のご後援により開催することができました。開催の告知は、広告の掲示、イベント「国際交流のタベ」において口頭で宣伝・広告配布、グローバル教育センターのメーリングリストによるメール配信、各運営メンバーの Facebook や Twitter などの SNS にて行いました。

ワークショップの開催当日は、匠木版画工房ふれあい館 朝香伝統木版画教室の朝香元晴氏、志波歩氏、石川陽子氏を講師としてお招きし、7名の日本人学生および12名の留学生とともに体験を行いました。

まず朝香氏から浮世絵について、実際に絵を見せていただきながら20分ほどの講義をしてい

ただき、その後は参加者を3班に分け、1つの班は歌川国芳の『猫飼好五十三疋』の一部を、1つの班は同じく国芳の『金魚づくし』の一部を志波氏と石川氏のご指導のもと刷り、残りの1班は朝香氏から木版の彫りについての説明と彫りの実演を見せていただきました。

ワークショップ終了後は、参加者の皆様に持参していただいた、それぞれの母国のお土産の交換を行い、日本人学生と留学生の間で互いの国について興味を持つようなきっかけづくりを試みました。その後別室に移動し懇親会を開催しました。こちらでは主に日本人学生と留学生との交流を深めることを目的として、かるたをして遊んだり雑談をしたりしました。

後日、会の最後に撮った集合写真を参加者の皆さまへメールにてお送りし、加えて本ワークショップへのアンケートにご協力いただきました。アンケートには、「書面上ではなく実際に浮世絵の刷りを体験できたことで、改めて浮世絵の素晴らしさを知った」「講師の方々の専門的なレクチャーとアドバイスがいただけて貴重な機会となった」「日本の伝統文化の知識を深められて良かった」といった感想をいただきました。同時に、反省点および今後への要望として、「刷りを待っている時間が長かったので、もう少し講師の方との打ち合わせを入念に行っておいた方がよいのではないか」「空手・茶道・生花・マンガといった他の日本文化に関するプロジェクトも開催してみてもどうか」といったご意見をいただきましたので、今後また国際古流の企画をする際に気を付けたいと思いました。

本活動を通じ、私たち自身浮世絵について学ぶところが多く、今後海外の方にお話しできる日本の伝統文化の知識がつけられ、また、海外の方へのお伝えの方法として、実際に体験していただくことはとても効果的だと思いました。さらに学生間の交流の面では、留学生とお茶大生が懸命に日本語でコミュニケーションをとろうとしていた姿が、国・言語・文化の違いを超えて新たなつながりを生んでいるように見えてとても印象的でした。このような企画の運営はたやすいことではありませんが、以上のように得られるものがたくさんあり、携われた喜びとやりがいを感じました。



講師の方々と完成した作品とともに